

■ 前回（第1回）の指摘事項

大分類	中分類	小分類	指摘事項
舗装	走りやすさ	眩しさ	反射によるまぶしさを防ぐため舗装の色について配慮してほしい。
		滑りやすさ	石畳などだと雨天時に滑りやすい。
		傾き	かまぼこ状の路面は片斜面を歩いているような感じになるのでできるだけフラットが望ましい。
		硬さ	路面が硬すぎると足への衝撃が大きくなる。
	性能	温度・反射熱	7時半にスタートしてもゴール時には33～34度となる場合、マラソンをするには危険。温度がなるべく下げられ、反射熱がこない道にしてほしい。
		湿度等	高温多湿による熱射病を避けるため、WBGTの表示が必要。そのためにも、湿球温度、乾球温度、黒球温度を測ることが必要。
			暑さ対策には打ち水が最も効果的（ただし中途半端は問題）。
			中途半端なミストはかえってマイナスとなる。
	路面の濡れ	路面がぬれている場合、ハンドリングで滑るため、スエードなどを貼るなど、個人での対応が必要。	
	その他	施工時期	保水性・遮熱性舗装は時間により劣化するので整備時期や施工期間を柔軟に運用できると有難い。
情報提供	気象	天候の変化やゲリラ豪雨の情報を提供できないか。	
		自分の疲れを自身でコントロールできるよう、路面温度情報を表示するといった工夫が必要。	
	選手位置情報	選手の位置情報がわかれば、観客の滞在時間が減り疲れも減る。	
	情報提供全般	どこにどういう情報提供をだすのか検討するのが大事。	
ICTを積極的に活用し、スマホと連動させたい。			
道路空間利活用	暑さ対策	高齢者や暑さに慣れていない外国人への対応として、緑化や座れる場所が必要。	
		暑さ対策として、観客席や屋根を設置する必要はないか。	
	自転車	歩道を安全にするためにも、自転車が車道を安全に走行できる空間の整備が必要。	
	その他	サイネージを路上に置くための柔軟な対応が必要。	
木陰やオープンカフェなどの設置、デジタルサイネージや広告などは、柔軟な対応が必要。			
その他	緑化	オリンピックを契機として、緑を増やしていく環境づくりが必要だということについて理解を深める取組みを進めていくことが望ましい。これにより、オリンピックのときだけではない環境整備ができる。	
	実験の継続性	実験の効果があるなら継続的に検証をして、いずれ技術を世界に輸出するとともに、日本国内でも広げてもらいたい。	
	コース・開始時間	マラソンコース・開始時間の決定には時間がかかる。	